

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月3日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300439		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム 長庚堂		
所在地	〒855-0802 長崎県島原市弁天町1-7054 (電話) 0957-65-0567		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年2月22日	評価確定日	平成20年3月12日

【情報提供票より】(平成20年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤 7名 非常勤 1名 常勤換算	4.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て造り		
	1階建ての	1階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	3,000円 + 実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または一日当り 800円		

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 91歳	最低	81歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	柴田長庚堂病院・島原保養院・喜多歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は病院医師で、高齢者の退院後の生活や介護の面の思いから事業所を設立した。利用者一人ひとりの個性を大切にしながら、「老いても障害を持って、自分らしく暮らせるように」と理念を捧げ、職員がそれぞれ意識付けを持ち、毎日のケアの中で取り組まれている。住宅街の一角に位置しており、お祭り・老人会訪問・避難訓練には、住民の方が多数参加され地元の人達の交流がある。隣接する母体病院からの訪問診察・訪問看護があり、日々の生活が安心して送れる医療体制が整っている。母体全体の合同イベントが季節おきに開催され、園児や小中学生とふれ合う機会がある。職員は明るく、笑顔で接している家庭的な温かいホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題に挙げた介護計画に添った記録については、個々の短期目標を職員の名札に掲示する等、改善に向けて、全職員が積極的に取り組まれている。排泄援助では、個別排泄記録表を作成し、24時間チェックし、排泄状態や不快感を少なくする取り組みをしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は評価の意義を理解しており、今回の評価は一人ひとりの意見を出し合い、ミーティング時に検討し管理者が集約され、全員で取り組まれた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は町内会会長・家族の代表1名・島原市地域包括支援センター・施設長・職員2名の参加で、2ヶ月毎に現状報告・行事等を討議している。成果として、町内会会長の参加や、地域の情報が把握できている。話し合いの中で、避難訓練の際の地域の方の呼びかけを行ってもらい、多数参加された。また訓練時は会議のメンバーも参加された。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年に2回家族回を開催している。家族と職員とのコミュニケーションが図られ、気軽に話しが出来る雰囲気作りに取り組んでいる。遠方の方には、利用者の日々の暮らしが分かる様に、電話・FAXで伝えられて、利用者・家族との信頼関係が出来ている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入し、出来るだけ地域の行事に参加して、母体法人の合同イベントにも参加され地域の方も来訪される。又、小学校の体験学習、中学生のボランティアもあり、地域清掃も参加し住民の方と接する機会がある。母体法人の託児所があり、幼児達が散歩の途中に立ち寄り、子供と触れ合う機会が多い。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老いても、障害を持って自分らしく暮らせるように」を基本理念として掲げ、家庭的な雰囲気の中で、生活を支援する事を目的として、意志を尊重し「個」を大切に努められている。		これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの意義を認識し合い、地域に密着したグループホームの位置付けになる様に、新たに付け加えることに期待したい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に理念を掲げられ、日々念頭に置き、ケアしている。申し送りやスタッフ会議の際、全員で理念について話し、共有している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、老人会の行事、市民清掃、他の施設や母体法人のイベントなどにも参加している。小学校の体験学習、中学生のボランティア活動もあり、散歩の途中に園児が立ち寄り、おやつを皆で食べる事もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が、日々のケアを振り返りながら、話し合いを重ねて取り組まれた。外部評価の結果については、改善課題に対して計画を立て、改善に向けて継続的に実施している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議では、ホームの日々の活動内容、利用者の状態の説明を行い理解を得ている。出席者の意見やアドバイスを受け、質の向上に繋げている。又、地域住民の方に参加協力の呼びかけの際は、推進委員の協力を頂く等、地域の理解と支援を得る為の貴重な場となっている。		

グループホーム 長庚堂

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターにグループホームの空き情報を伝えており、毎月、発行する便りを渡し、ホームとの関係作りを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月便りを発行し、利用者の様子や写真を掲載し、面会時に渡される。健康状態に変化があった場合は、その都度連絡する。金銭管理については金銭出納帳に家族の確認・サインをして頂き、確実な報告が行われている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年2回あり、家族が意見を言い易い雰囲気作りに取り組まれている。実施する際、イベントも兼ねて行われている事もあり、家族間・職員とのコミュニケーションが図られている。家族の代表より意見を伝えてもらいサービスに反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時からの職員が多く、異動・退職はほとんどない。新しい職員が入った際は、利用者の方に馴染みの関係が持てるようにお話をし、信頼関係が深めるよう取り組まれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修会や外部研修会には積極的に参加している。スタッフ会議や申し送りの際、研修の報告はあり、職員間での共有は図られているが、報告書の作成には至っていない。		研修後、報告書を作成し、より一層職員間での伝達共有が出来て、研修で得た技術・知識がケアの質と向上に繋げる事に期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア研究会の研修・懇談会を通し、他の事業所の交流が深まり、情報交換の場として積極的に共有をはかっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望があれば、本人・家族が見学に来て頂き、ホームの雰囲気を観ている。場合によっては自宅訪問に行かれる時もあり、入居後はしばらく馴染むまで、職員の見守りや時間をかけながら接している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の生活を通して教えてもらう場面が多く、新聞の内容・昔の出来事・行事の習わし・干し柿作りや職員の間性を発せられる時もある。利用者と共に楽しみながら過ごすように取り組まれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の希望を取り入れ、一人ひとりの状況やその時の思いを、言葉や表情などで汲み取り、意向の把握の困難な方には声かけの際、仕草で確認されたり、家族からの情報を得ながら、その人らしい暮らしの支援に取り組まれている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全職員で毎月ケアカンファレンスを行い、利用者・家族の意向を確認している。遠方の家族には資料を送付し意見を求め、確認して頂いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンス時に情報を確認し、期間終了前に見直している。状態変化が見られた場合は、その都度話し合い見直しを行っている。家族へはケアプランを伝えた上で意向の確認を行いながら、同意を頂いている。</p>		<p>更に利用者のモニタリングを行う期間を、半年に1度ではなく、もう少し期間を短くし、本人の今の意向や状況を細かく確認し、ケアプランに即した記述を深めることで、ケアによる気づきがより一層計画に反映できる工夫に期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	連携病院が母体法人であり、利用者の負担となる受診を訪問診察にしている。医療連携体制が整っており、認知症専門医へ相談へ行かれる事もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人母体の病院で受診している。本人・家族の希望する医療機関の要望があれば受診出来る様に支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の有り方については、入所時に説明している。意志確認書については家族と話し合いながらその時に応じて対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮しながら言葉掛けを行っている。又、接遇の研修が年に2回、外部研修と母体法人で行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのスケジュールで生活するのではなく、利用者一人ひとりのリズムを崩さない様心がけており、本人の気持ちを尊重し暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食は母体法人からの給食サービスを利用している。朝食は利用者の方も一緒に調理され、職員も利用者と共に食事をしている。毎食後、後片付けは楽しい雰囲気で行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日置きに入浴ができ、利用者の方が好きな時間帯に、入浴する事ができる。菖蒲湯・ゆず湯など入浴時に、季節を楽しむ事の出来る配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草花の手入れ・裁縫・生け花・洗濯物畳み、食事の準備を手伝ったり、家事への参加は自然に行われており、役割・楽しみを持ってもらえる支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの意向を踏まえ、日常的に気軽に外出できるように支援している。車椅子の方も個別に対応が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵を掛けないで、見守りで対応しながら、鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の立会いのもと、消火・避難訓練を地域の消防団や住民の協力を得ながら実施している。母体法人の非難訓練や町内会での災害に対する集会時には、職員が出席して、地域との関わりがもてるよう取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は一人ひとり記録し、水分制限の有る方には水分管理等を行っている。母体法人の栄養士に定期的に献立をチェックして、アドバイスを貰っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は明るい自然な光が立ち込んでいる。廊下には利用者の方が作成した塗り絵・写真・便りなどが提示してある。玄関は車椅子もスムーズに移動できるように広いスロープになっている。食堂では職員の方と楽しい会話がはずみ、思い思いに過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の方の馴染みの家具・家族の写真・テレビ・カーペット・仏様など本人にとって、思い出深い物が置かれてあり、家庭と同じように居心地よく過ごしている。		